



## はんげしょう 「半夏生」

のむら ひかる  
学校長 野村 光

関東地方もようやく梅雨入りをし、生き物や作物にとっては恵みの雨の時期を迎えました。今、学校の中庭に「半夏生(ハンゲショウ)」の群生を見ることができます。半夏生は6月下旬～7月初旬頃に、白く細長い花穂が咲き、葉の半分(表面)が白くなるめずらしい多年草で、地域によっては絶滅危惧種に指定されている植物です。

また、日本には季節の節目を表す言葉が多くあり、これらを生活の中に取り入れてきたことが分かる風習や農事が残されています。七十二候(しちじゅうにこう)という二十四節気をさらに約5日ずつの3つに分けた期間のひとつに「半夏生」があります。冒頭の植物の半夏生と同じ漢字で表す季節名としての「半夏生」は、夏至から11日目にあたる日を言い、今年の半夏生は7月1日です。この時期は、最も田植えに適した時期であり、半夏生までに農作業を終え豊作を祈るという、農家にとってはとても大切な節目の時でもあるようです。もちろんコンピューターなどない昔から、人々は太陽の高さや通り道を認識し、天候や移り行く大きな自然の流れに抗うことなく、時の節目をていねいに生きてきたことを改めて感じます。新茶の摘み取りをする「八十八夜」も、穀物の種まきの機会である「五風十雨」も、何れも節目を大切に捉えた、栽培を成功させるための古人の知恵といえるでしょう。

今、学校でもそれぞれの学年が植物や作物を育てる学習を進めています。1年生はアサガオやマリーゴールド、フウセンカズラなどの花を種から育てています。2年生は自分で育てたい夏野菜を思い思いの鉢で育てています。4・5組では、サツマイモとイネを育てています。イネの苗は学区にある、はまぎん子ども宇宙科学館から分けていただきました。4年生は総合の学習で、校内の日差しを遮る必要がある場所を調べ、ゴーヤのグリーンカーテン作りに挑戦しています。生き物を育てる中で得ることは多くあります。子どもたちはそれぞれの栽培活動が続ける中で、壁(課題)に当たることもあると思います。時には先人の知恵を借りながら、それを乗り越えた先には、きっと豊かな収穫の時期が待っているはずです。

学校行事の節目としての夏休みも7月20日から始まります。4月からの3か月間をしっかりと振り返り、夏休み明けからの前期後半の活動へ繋げていけるように支援していきたいと思います。



▲半夏生(ハンゲショウ)の花

保護者の方、地域の方におかれましては新年度からの学校行事等に対する様々なご協力に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。